

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
福祉心理学基盤演習Ⅱ		必修	1	1	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
柁木 隆寿 他	B306	t.masaki	木曜日 14:40～17:40		
授業の目的・概要	<p><目的> 「福祉心理学基盤演習Ⅰ」の内容を踏まえ、社会福祉学や心理学の理論や知識を基盤としたコミュニケーションの基本を学び、さらに理解を深めることを目的とする。また、自己理解に基づきながら、社会とのより良いかかわりについて体得することを目的とする。</p> <p><概要> 社会的存在としての人を意識して、自己と社会とのかかわりに関する調査・分析を行う。その成果の発表や討論を通して自らの人生の方向性・キャリアについて理解を深める。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input checked="" type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input checked="" type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	社会の中で自分らしく生きることができるよう、自分自身について理解をさらに深めて欲しい。授業への積極的かつ誠実な態度での参加を求める。				
教科書	教科書は指定しない。必要に応じて資料を配付する。				
参考書	適宜紹介する。				
外部教材	無し				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	社会福祉学や心理学における自己理解の理論や知識を理解し、説明することができる。			HSU(1)、(2)、(3)、HC(5)	
②	自己理解に基づいたコミュニケーション力を身につけ、実践することができる。			HSU(1)、(2)、(3)、HC(6)	
③	人と社会の多様なかかわりについて理解し考察できる。			HSU(2)、(3)、HC(3)、(6)	
④	社会の中で自己理解に基づいた自己表現ができる。			HSU(2)、(3)、HC(4)、(6)	
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション、『社会の中における自分』について学ぶ。	講義	配布資料をもとに授業の振り返り、整理を行う。	2	
2	『個人と社会のかかわり方』についてのインタビュー (1) : インタビューの準備を行う。	講義・演習	インタビューの準備作業をグループで行う。	2	
3	『個人と社会のかかわり方』についてのインタビュー (2) : インタビューの準備を行い、実施する。	講義・演習	インタビューの準備作業およびインタビューの実施をグループで行う。	3	
4	『個人と社会のかかわり方』についてのインタビュー (3) : インタビュー結果の発表準備を行う。	講義・演習	発表準備を行う。	6	
5	『個人と社会のかかわり方』についてのインタビュー (4) : インタビュー結果の発表を行う。	講義・演習	発表準備を行い、授業後に振り返りを行う。	5	
6	キャリア形成における業界・企業研究の基本、重要性について学ぶ (1)。	講義・演習	自分の関心のある業界・企業の情報収集を行い、発表の準備を行う。	3	
7	キャリア形成における業界・企業研究の基本、重要性について (2)。	講義・演習		4	
8	業界・企業研究に関する発表を行う。	講義・演習	発表準備を行い、授業後に振り返りを行う。	5	
試	/				

【2022 年度/専門科目領域/専門科目群/人間コミュニケーション学科・福祉心理学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	30	40	0	30	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	10	0	0	20
	思考・推論・創造する力	0	0	10	0	0	10
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	10	10	0	0	20
	コミュニケーション力	0	10	10	0	10	30
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
レポート	①	✓	最終課題レポートについて、出題意図に即した内容が記述できているか、テーマに応じた思考・考察ができていないか、相手に伝わる表現法が選ばれているかという観点で評価する。			各自が提出したレポートにコメントを付し返却する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
成果発表	①	✓	与えられたテーマに関して求められている内容を理解し、発表できているか、相手にわかりやすく伝えているかなどに関して評価する。			発表後に講評を行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	各授業において実施するワークへの取り組みや課題の提出状況に基づいて評価する。			ワークや課題はコメントを付けて返却する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	前川 真奈美						
教員の実務経験	無し						
実践的授業の内容	該当せず						
そ の 他	<p>Microsoft Teams を用いて諸事の連絡を行うので確認を怠らないこと。</p> <p>また、全 15 回が登校授業（対面授業）であるため、大学が示した感染症予防対策の指針を遵守すること。感染症予防対策の観点から、教員の指示に従わない行動をとった場合には受講を認めないことがある。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p>						